

しーきゅうぶ東海村

トピック

原子力機構 臨界安全実験施設を視察

皆さんには原研・東海研究所としてなじみのある、日本原子力研究開発機構東海研究センター内の臨界安全実験施設の視察を、9月1日と9月13日の2日間をかけて実施しました。

視察の内容や私たちの提案は次号でご紹介いたします。

メッセージ作成ワーキンググループの皆さんと議論

9月19日、日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所のリスクコミュニケーション活動の一環として「メッセージ作成ワーキンググループ」に参加している住民メンバーの皆さんと、NPO法人「ふれあいネット会」の方に、三菱原子燃料株式会社の視察結果を紹介し、しーきゅうぶ東海村の今後の活動について意見をうかがいました。同じように、原子力の安全と安心感の向上を目指す仲間として話がつきず、あっという間の1時間半でした。

国民保護訓練に参加し、村に提言

9月29日に行われた平成18年度茨城県国民保護訓練に参加し、対策本部や避難所での訓練のあり方について提言をまとめ、12月6日、村上村長に提出しました。私たちは、住民が安心して暮らすために必須の防災力強化に向けて、村に協力していきたいと考えています。詳しい内容は2～3ページをごらんください。また、防災訓練に対する皆様のご意見をお寄せください。

第4号

2007年1月26日発行

題字：山口歎一

目次

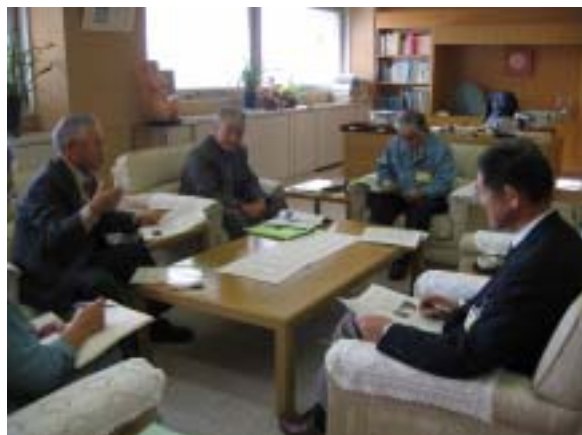
国民保護訓練に参加、村に提言	2～3
会員募集・活動予定	4

お知らせ

しーきゅうぶ東海村の活動をタイムリーにお伝えし、気軽に読んでいただくため、広報紙の構成を一新しました。今後、しーきゅうぶ東海村をよろしく願います。



村長に提言書を提出



提言内容について議論

18年度茨城県国民保護訓練に参加

訓練参加報告と提言紹介

2006年9月29日（金） 7時～14時

今年の防災訓練は、東海第二原子力発電所がテロリストに攻撃され、施設に損傷がもたらされたとの前提で行われました。国民保護法に基づく訓練で、国、県及び地元市町村、関係機関が連携して緊急事態に対応し、引き続き原子力災害に対処するため住民の広域避難を含む訓練を行うという内容です。

国民保護法に基づく訓練としては全国で3番目で、従来の原子力防災訓練とは異なる試みがいろいろ盛り込まれていました。特にいつもの原子力防災訓練との違いは、国民保護訓練では原子力施設周辺住民には自家用車による避難が認められているという点です。このため、約50台の自家用車による要援護者避難の訓練、警察による交通規制を実施し、問題点の把握をすることが計画されていました。

しーきゅうぶ東海村のメンバー4名は、前年度までと同様、村の対策本部と避難所の観察のほか、一時集合場所から避難所までの避難体験に分かれて、訓練を体験しました。なお、今回想定されたテロ攻撃によって原子炉設備が損傷し、住民避難が必要になるまでには実際には2日程度の時間がかかりますが、訓練は半日に短縮して実施されました。



第一報を受けて集まった対策本部要員



対策本部の立ち上げの様子



避難車の列



避難所内では放射性物質の汚染検査が行われる
今回は各グループ代表者1名のみに実施

< 訓練のシナリオ：発生から避難まで >

- 7：00 東海第二発電所へのテロ攻撃、テロリスト逃走
- 7：02 原子炉自動停止、外部電源喪失
- 7：05 関係機関への緊急通報
- 7：30 東海村、緊急事態連絡室を設置
- 7：45 オフサイトセンター立ち上げ準備
- 8：00 東海村、緊急事態連絡室第1回会議
- 8：10 東海村、緊急処理事態対策本部会議を実施
- 8：15 原子炉冷却材漏洩の報告、冷却水注水開始
- 9：00 オフサイトセンター 第1回会議
- 9：15 冷却水ポンプ全台故障
- 9：20 住民避難準備の指示、自衛隊派遣要請
- 9：50 炉心損傷の可能性の報告
- 10：30 住民避難決定
- 11：15 住民避難開始、交通規制（15分間）
- 11：30 炉心損傷、放射性物質の放出始まる

しーきゅうぶ東海村の提案

(1) 国民保護訓練の改善

通常の訓練との違いが、村職員や住民にも分かるように、テロリストが逃亡している間は外出を控えるようにアナウンスをするなどの相違点をシナリオに盛り込むべきである。

(2) 住民、特に避難者への情報提供方法の改善

今年の訓練では、戸別受信機を携帯するという改善が行われたが、避難所の情報システムを映像やインターネット情報を活用した多重のシステムに改善し、避難所が情報空白にならないようにする必要がある。

(3) 実効的な防災教育の実施

避難所で行われる防災研修は有益である。しかし、内容が分かりにくかったり、住民が知りたいこととは異なっていたりするなど改善が必要である。住民が本当に知りたい事柄を資料にまとめるために、NPO法人などと協力してはどうか。

(4) 日ごろからの防災意識の醸成

分かりやすい身近な防災資料を、訓練に参加しない人にも配布し、常会等を通じてより多くの住民に伝達していくことが望ましい。また、原子力災害時においても共助を実現するように、自治会制度等を活用して、それぞれの自治会の問題を発見し、対処方法を事前に検討する試み始める必要がある。

(5) 実践的な机上訓練内容の情報公開

シナリオに沿って淡々と進む訓練をみて気になることは、実際の事故時に機能するのだろうかという心配である。これに対して、村ではさまざまな状況を踏まえた机上訓練を重ねていると回答している。しかし、どのような訓練が具体的に検討されているのかについての情報は開示されていない。住民の安心感を高めるためにも、机上訓練で検討されているシナリオを公開してほしいと思う。

(6) 訓練日時を検討

今年は小学生が参加できるように、平日である9月29日に訓練が実施された。しかし、平日の訓練では高齢者と子供しか参加できない。より多くの、より多様な住民が訓練を経験できるように、平日以外の訓練実施をそろそろ検討すべきである。逆に、企業等へ協力を要請し、平日の訓練への参加を促すことも検討してはどうか。

(7) 災害ボランティア制度の創設

分かりやすい情報の提供とともに、身近な相談相手としての災害ボランティアの創設を提案する。たとえば、防災訓練に参加した人は参加回数や果たした役割などに応じてグレード分けし、グレードに応じた目立ちやすいジャンパーあるいはバッジなどを交付して災害発生時にはそれを着用してもらう。そして、事前に防災専門家や役場職員の講習などを受講してもらって、災害発生時には役場職員やその他の公的職員の補助役として位置づけ、避難誘導や要援護者の避難のサポートなどを一時的に担当してもらう。また、(4)の自治会単位での防災の協議の中心になったり、(5)の机上訓練の協力者になるなど、防災の知識と経験のレベルに応じた役割を住民が担うしくみを検討されたい。

(8) 見学者コーナーの設置

村の対策本部にはメディアや議員、村民のための見学スペースが設けられている。しかし、マイクを使った説明や指示以外は、何が議論されているか聞き取りにくく、議論の材料となっている資料も表示されないため、本部で何が進行しているかはほとんどわからない。見学者が対策本部の機能や実際の活動をよりよく理解するために、議論の内容や情報共有システムの内容をスクリーンで大きく写す、もしくは見学スペースに情報共有システムを設置することを検討してはどうか。



避難所では原子力防災の説明や非常食の試食がある

特定非営利活動法人 HSEリスク・シーキューブ

全体事務局
〒201-8511
東京都狛江市岩戸北2-11-1
財団法人電力中央研究所
社会経済研究所内

電話 070(6568)8991
Fax 03(3480)3492

tsuchiya@criepi.denken.or.jp

tokaic3.fc2web.com

次号は2007年3月発行予定

会員になってください!

HSEリスク・シーキューブは、身近な健康や安全・環境のリスク問題を、住民と行政・企業がいっしょに考えられる社会づくりをめざす特定非営利活動法人です。

広報紙「しーきゅうぶ東海村」は、東海村支部の活動をお知らせするために発行しています。東海村とその周辺にお住まいの方、一緒に活動してみませんか? 会員には次の3種類があります。

正会員(個人) 入会金3000円 年会費5000円(議決権あり)

活動会員(個人) 入会金3000円 年会費3000円(議決権なし)

賛助会員(個人) 入会金2000円 年会費 1口2000円

賛助会員(団体) 入会金10000円 年会費 1口50000円

入会についてのお問い合わせ、資料請求は左記の全体事務局までお気軽にどうぞ

しーきゅうぶ東海村 活動予定

2月1日(木)16時~ 東海・大洗原子力保安検査官事務所との
対話の会

18時~ 新年会

2月14日(水)14時~17時 2月定例会

3月14日(水)14時~17時 3月定例会

「NPOしーきゅうぶ東海村」について

「NPOしーきゅうぶ東海村」の前身は、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」です。この会は、2003年より「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」プロジェクトの中心的な活動組織として、原子力事業所とのリスクコミュニケーションを行ってきました。2005年2月にプロジェクトは終了。提言する会の活動を続けていくため、特定非営利活動法人HSEリスク・シーキューブの東海村支部を立ち上げました。

シーキューブとは、私たちが意識して活動している次の3つのCのことです。

地域社会—Community (コミュニティ)

対話—Communication (コミュニケーション)

協働—Collaboration (コラボレーション)

3つのCが支えあうことで信頼と安心の空間ができるようにとの願いをこめて、立方体を表す

キューブと呼んでいます。また、NPO法人としては暮らしに関係のあるリスクを自らの問題として考える団体を目指したいと考え。

健康—Health (ヘルス)

安全—Safety (セーフティ)

環境—Environment (エンバイロメント)

の頭文字HSEをNPO法人名に冠しました。

編集後記

2007年も明けた。今まで視察を受け入れてくださった全ての事業所で目にしたのは、使命感に燃え、事業や安全教育の目標を設定し、日々精進されている人々の姿だった。

しかしテレビをつけると、日々悲惨な出来事が耳に飛び込んでくる。この差は何だろう? どこかで歪みがきたところが悲劇になる。年齢、職種、環境を越えて、お互いに見合い、話し合い、暖かい心が湧いてくるコミュニケーションをする必要があると思う。(清水)